

# びおらの支援業務

NPO法人まることびおらは大仙市の委託を受け、大仙市子ども・若者総合相談センターびおらを拠点として次の4つの業務を行っています。

## 相談支援業務

ひきこもりや不登校などさまざまな問題について、電話相談や来所相談を行います。また臨床心理士の先生の相談会を通じて専門的な見地から継続的な支援を行います。

## 居場所業務

基本的な生活習慣を身につけるとともに、音楽教室や絵画教室、パソコン教室、畑での野菜作りなど、いろんな体験を積み重ね自立に向けたエネルギーを蓄えます。

## 就労準備支援業務

ひきこもり者の就労を支援する大仙若者就労支援企業の会の協力を得て、企業見学や就業体験（ジョブトレ）など就労の前段階における支援を行います。

## アウトリーチ業務

長年引きこもっている家庭を訪問。本人や家族の状況を把握しながら社会との繋がりを取り戻し、自立のきっかけをつかんでもらうために継続的な支援を行います。

### 総合相談受付

Tel.0187-66-1106

(年末年始を除く毎日※土・日・祝日も開所)  
電話受付/午前9:00～午後5:00



大仙市子ども・若者総合相談センターびおら

〒014-0026 秋田県大仙市大曲丸の内町1番11-2号

TEL・FAX 0187-66-1106

このパンフレットは厚生労働省の「地域におけるアウトリーチ型就労準備支援事業補助金」を活用しています。

## まることびおら

ひきこもりで  
悩んで  
いませんか？

不登校

未就労

高校中退

家族との  
会話が  
ない、  
顔を  
合わせ  
ない...

自分の  
部屋に  
閉じこ  
もり  
がち...

人と  
接する  
のが  
苦手...

コンビニ  
には  
出かける  
けど、  
人と話  
したこ  
とがない...

話すことで気づくこともあります。  
私達相談機関は、今できることを一緒に考えていきます。

**ご相談をお待ちしています。**

大仙市  
事業受託:NPO法人まることびおら

## わたしたちはこのように考えています

### ひきこもっている ご本人の 気持ち

助けたいと思ってひきこもっている人はまずいません。部屋でゲームやインターネットに没頭しているように見えても、心の底から楽しんでいるわけではなく、自分自身、ひきこもっていることを苦めていたり、誰にも不安や葛藤を抱えており、身近な家族に対して、攻撃的な態度を取ることもあります。また、心の中では、「何とかしたい」「自分を理解してほしい」という気持ちを持っています。ひきこもっていても、こうしたことにエネルギーを消耗しています。そんな彼らの多くは、早く社会復帰したいと思いながら、行動に移せず思い悩んでいます。



### ご家族に できること

本人がひきこもっていることによって、家族は大きな影響を受けています。育て方や家庭環境など、ご自身を責めていることもあります。ひきこもっていることが原因にとらわれ、視野が狭くなってしまふこともあります。ご家族にも助けが必要であると言えます。相談機関や家族会での相談を通して、話をすることで気持ちが楽になることもあります。的確な情報を得て、「自分たち自身の対処方法を身につけ、ゆとりを取り戻すこと」によって、ご本人への対応に変化が出て、ご本人の状況にもいい影響をもたらすことにもつながります。ご本人は言えませんが、ご家族だけでも思い切って、相談機関にまずお電話されることをお勧めします。



### なぜ ひきこもる のか？

ひきこもりに至った原因や理由はわからないことも少なくありません。不登校の経験のある方や、就職してから人間関係等により退職し、そのままひきこもる方もいます。仮に思いある原因があっても、過去にさかのぼって取り除くことは困難です。何らかのストレスが大きすぎて、自分の方ではどうにもできなくなった時、もつこれ以上凌げないよう、外からの刺激を遮断し、外界との接触を制限することで自分を守るようにしている状態とも言え、苦えや怒りではありません。原因を追究するより、これからどのようにしていくかが大切です。

### ひきこもりは 病気？

「ひきこもり」という病名があるわけではありません。精神的疾患や発達障害が背景にあり、ひきこもりの状態になる場合があります。また、ひきこもり状態が長引く中で、精神症状が現れる場合もあり、医療を受けることが有効な場合もあります。



## ひきこもりの家庭を訪問する 大仙市よりそいサポーター

大仙市ではこれまで相談センターに来られる利用者を中心に支援してきました。しかし、ひきこもっている本人の中にも、社会に出たい、自立したいと思っているのにどうしていいかわからず、どうすることもできずに手を差し伸べてほしいと思っている人たちがいるにちがいません。

また、家族も長年にわたってひきこもっている本人を抱え、誰にも助けを求めることができないまま将来を悲観し、地域の中で埋もれている家庭も少なくありません。

大仙市ではこうした本人や家族を対象とし、家庭訪問を通じて支援の手を差し伸べるアウトリーチ事業を実施することになりました。

この事業では、次の三つの視点から支援を行っていきます。

### 家庭訪問

本人や家族との面談を重ねながら日常生活状況を把握するなど、本人の状況によりそった支援を手厚く行うことで継続的な支援を行います。

### 就労準備支援

身近で馴染みのある環境において支援を行うため、地域行事や商店街、企業等の就労体験先を開拓し、本人の思いにマッチングする取り組みを行います。

### 同行支援

相談センターびおらや市役所などの公的な機関や病院の他、就労準備支援の就労体験先にも同行します。

### サポーターって、どんな人？

- 1 サポーターはひきこもり状態の本人や家族への支援に関心がある人で、一定の研修を受け、基本的な知識や支援方法等を習得した相談員です。
- 2 サポーターは必ず2人で訪問し、身分証明書を所持しています。
- 3 訪問にあたっては、個人情報に関係者以外の人に漏れることはありません。

### 専門職による同行支援

- 1 長期間のひきこもり者の中には、知らず知らずのうちに精神的な疾患や発達障害を抱えている場合があります。専門的な判断が求められます。
- 2 こうした専門性を確保するため、保健師や臨床心理士などから一緒に家庭訪問に同行してもらい、本人の心身を把握し、その後の適切な対応につなげます。